

～医療機関の皆さま・患者様へ～

# 油症の現況と 治療の手引き



令和6年4月

九州大学病院  
油症ダイオキシン研究診療センター

# 油症とは

- 油症は1968年に福岡県、長崎県を中心とした西日本において、カネミ倉庫会社製のライスオイルを摂取することで発生しました。
- ライスオイルはpolychlorinated biphenyls (PCBs) や、ダイオキシン類である polychlorinated dibenzofurans (PCDFs) などに汚染されていたため、油症はこれらの有機塩素化合物による複合中毒と認識されています。特に2,3,4,7,8-Penta-CDFは、現在でも健常人の約10倍\*の濃度で患者血中に残留しています。
- 油症発症早期には黒色面皰、痤瘡様皮疹、顔面・指趾爪の色素沈着などの皮膚症状、マイボーム腺からのチーズ様分泌物、瞼結膜・球結膜の色素沈着などの眼症状、四肢のしびれ、知覚鈍麻などの神経症状、月経周期の異常などの婦人科症状がみられました。
- 現在では特徴的な皮膚症状、眼症状を呈する患者は減少していますが、全身倦怠感、頭痛・頭重、四肢のしびれ感、咳嗽、喀痰、腹痛などはいまだに40-70%#の患者に認められ、これらの症状と血中ダイオキシン濃度とが相関することがわかっています。
- ダイオキシン類・PCB類の慢性毒性、発癌性、次世代への影響などには不明な点が多く、引き続き調査・研究が必要です。

\*#:厚生労働科学研究班の調査(\*,n=371;#,n=358)より



# 油症の治療

- 油症の根治的な治療には、摂取したPCBやダイオキシン類を全て排出する、あるいは無害な代謝物に変換することが必要と考えられますが、治療法は確立していません。
- 油症患者の各症状の緩和を目的に漢方薬の臨床試験を行いました。用いられた漢方薬の中で、麦門冬湯が咳・痰といった呼吸器症状を改善することが明らかになりました。
- 補中益気湯は油症の全身倦怠感を改善する効果が認められず、油症患者への使用は適当でないと考えられました。加えて、桂枝茯苓丸は、ダイオキシンによる酸化ストレスを減弱し、油症の症状を軽減する事が、臨床試験で明らかになっています。
- 皮膚症状では、炎症を伴う痤瘡様皮疹・嚢腫には抗菌薬の内服を行うほか、嚢腫、限局した膿皮症、痤瘡瘢痕などには外科的治療が適応となることがあります。
- 油症の臨床症状は多岐にわたるため、かかりつけ医と、皮膚科、眼科、整形外科、呼吸器科、神経内科、婦人科、歯科、内科など各科との連携が必要となります。

## 内科・全身症状

### 症状に応じた 対症治療

#### 皮膚症状

痤瘡様皮疹、嚢腫、膿皮症



感染を伴う場合は

抗菌薬

外科的治療の適応も

#### 呼吸器症状

咳嗽、喀痰



感染を伴う場合は

抗菌薬

麦門冬湯も効果的

- 油症に関する情報について詳しくは、以下のホームページをご覧ください。

<https://www.kyudai-derm.org/part/yusho/index.html>

<https://www.yusho.hosp.kyushu-u.ac.jp> (油症ダイオキシン研究診療センター)

# 生活指針

- 油症患者さんの中には脂質代謝や免疫が低下している方がおられます。したがって、蛋白質やビタミンが豊富な栄養的にバランスのとれた食事の摂取に特に心がけるとともに、タバコはひかえてください。
- これまでの研究により、多くの油症患者さんの体内には今でもダイオキシン類が存在し、活性酸素が産生されていることがわかりました。
- 一般に活性酸素は老化やガン・動脈硬化、その他多くの疾病の発生に関係している有害物質ですが、ポリフェノール、フラボノイド、ビタミンなどの抗酸化物質（ダイオキシン類の毒性を抑制する物質）を多く含む野菜や果物などを食べることで、活性酸素が中和されることがわかっています。
- ガン予防のために野菜や果物をたくさん食べることが有効であることも、国内ばかりでなく国際的にもよく知られています<sup>(1)(2)</sup>。したがって、油症患者さんは野菜や果物などを毎日たくさん食べることをお勧めします。
- 厚生労働省では、健康増進のため成人1日あたり野菜摂取量について、平均350g以上を目標とする、と定めていることを参考にして頂きたいと思います<sup>(1)</sup>。
- 野菜は生よりも加熱したほうがよいことが報告されています。生の植物細胞は人の消化液では壊れにくいのですが、加熱すると壊れて有効成分が煮汁に出てくるので、有効成分の利用効率が高くなるからです<sup>(3)</sup>。
- 繰り返しになりますが、植物に含まれるポリフェノールの中にダイオキシン類の毒性を抑制するものがあることがわかってきました。表1にあげるような野菜、果物、ハーブにはそのようなポリフェノールが多く含まれています。このような食品を積極的に摂ることで、体調の改善が期待できます。どれか一つの食品ばかりを摂取するのではなく、バランスよく多くの種類の食品を摂取することも大事です。
- 赤ワイン、ビールにもポリフェノールが多く含まれているので、適量の摂取は同様に体調の改善に役立つ可能性があります。もちろん、過度の飲酒は禁物です。

## 文 献

(1) 厚生労働省 「健康日本21」

(2) World Cancer Research Fund / American Institute for Cancer Research. Food, Nutrition, Physical Activity, and the Prevention of Cancer: a Global Perspective. Washington DC: AICR, 2007

(3) 前田浩 「野菜はガン予防に有効か：酸素ラジカルを巡る諸問題」1995 菜根出版

# 表1

## ダイオキシン類の毒性を抑制する 可能性がある食物とその成分

### 野菜

|          |                          |
|----------|--------------------------|
| トマト      | ナリングニン、ケルセチン、<br>ケンフェロール |
| セロリ      | アピゲニン、ルテオリン              |
| ピーマン     | アピゲニン、ルテオリン              |
| シュンギク    | ルテオリン、ケンフェロール            |
| レタス      | ルテオリン、ケルセチン、<br>ケンフェロール  |
| ニンジン     | ルテオリン                    |
| タマネギ     | ケルセチン、ケンフェロール            |
| ブロッコリー   | ケルセチン、ケンフェロール            |
| カボチャ     | ケルセチン                    |
| ニラ       | ケンフェロール                  |
| ダイコン     | ケンフェロール                  |
| ホウレンソウ   | ケンフェロール                  |
| ハクサイ     | ケンフェロール                  |
| アーティチョーク | シナロピクリン                  |

### 果物

|     |             |
|-----|-------------|
| レモン | ヘスペレチン      |
| ミカン | ヘスペレチン      |
| リンゴ | ルテオリン、ケルセチン |
| イチゴ | ケルセチン       |
| ブドウ | ケルセチン、ミリセチン |

### 香辛料・ハーブ

|                                   |             |
|-----------------------------------|-------------|
| パセリ                               | アピゲニン、ルテオリン |
| パプリカ                              | ヘスペレチン      |
| シソ                                | ルテオリン       |
| ミント                               | ルテオリン       |
| ローズマリー                            | ルテオリン       |
| ショウガ                              | クルクミン       |
| ウコン                               | クルクミン       |
| コショウ                              | ピペリン        |
| トウガラシ                             | ケルセチン       |
| タチアワユキ<br>センダングサ<br>(学名：ビデンスピローサ) | 成分不明        |

### 豆・雑穀

|       |                |
|-------|----------------|
| 大豆    | ダイゼイン、ゲニステイン   |
| ピーナッツ | ルテオリン、レスベラトロール |
| ソバ    | ケルセチン          |

### 嗜好品など

|      |               |
|------|---------------|
| 茶    | ケルセチン、クロロフィル  |
| 赤ワイン | レスベラトロール      |
| ビール  | ケルセチン、ケンフェロール |

■油症に関する情報について詳しくは、以下のホームページをご覧ください。

<https://www.kyudai-derm.org/part/yusho/index.html>  
<https://www.yusho.hosp.kyushu-u.ac.jp> (油症ダイオキシン研究診療センター)

## 相談窓口

### ■油症ダイオキシン研究診療センター

〒812-8582

福岡市東区馬出3-1-1 九州大学病院ウエストウイング5階

● TEL :092-642-5211

● FAX:092-642-5201

担当医師 ◎センター長 中原 剛士

◎副センター長 辻 学

芦田 美輪(長崎大学)、小笹 宗一郎(長崎大学)

看護師 中村 優子

メディカル  
ソーシャルワーカー  
山口 加寿美

事務 渡辺 直子

お電話  
いただければ、  
折り返し  
ご連絡させて  
いただきます

### ■相談員

准看護師 只熊 幸代 ● 080-1714-9227 (長崎県在住)

看護師 山根 美喜子 ● 080-1922-0980 (広島県在住)

相談支援員 統括 (テクニカルスタッフ) 四本 仲夏 ● 080-9407-3253 (全国班担当)

(令和8年4月現在)

## 油症外来

### ■九州大学病院皮膚科

● TEL :092-642-5211

日 時 毎週水曜日 13:30~15:00

担当医師 辻、山村

電話予約  
をお願いします

### ■長崎大学病院皮膚科・アレルギー科

● TEL :095-819-7465

日 時 毎週金曜日 14:00~16:00

担当医師 芦田

### ■長崎県五島中央病院油症外来

● TEL :0959-72-3181

日 時 第1水曜日(皮膚科)9:30~12:00、第1・3金曜日(内科) 9:30~12:00

担当医師 芦田(皮膚科)、小笹(内科)

(令和8年4月現在)